

# 被害額2千万円の農業者も 武田参院議員が農業施設被害調査

今冬の豪雪で市内の農業者の農業施設が大きな被害をこうむっています。こうした事態を受けて、日本共産党の

武田良介参院議員が19日、上越市に入り、浦川原区、大潟区、吉川区の3か所で農機具格納庫やビニールハウスなどの被害実態調査を行いました。これには市議会の日本共産党議員団が同行しました。

被災された農業者からは、「3トントラック、買ったままの新しい田植え機、建物だけで被害額は2000万円を超える。総合保険でないと、保険金はおろない」（浦川原区）、「8棟のビニールハウスのうち6棟がやられ

た。懸命に除雪作業をしていたが間に合わなかった。被害額は1000万円くらいだと思う」（吉川区）、「農機具の入ったハウスではパイプをカットし、トラクターを救出した。ニワトリを飼っているハウスは5台のストロップをつけ、つぶさないですんだ」（大潟区）などの声を寄せていただきました。武田参院議員は、「山梨の豪雪被害のときのような支援をぜひ実現させたい」とのべ、関係農家を激励しました。

日本共産党議員団はこの調査の前日、村山市長に豪雪災害に関する緊急要請を行い、その中で、ビニールハウ

スなどの農業施設の春耕期前の復旧などの支援を求めました。



【スイセン】再掲。ヒガンバナ科の植物。漢字で「水仙」と書きます。ニラと間違える人が多いとか。有毒です。写真は20日、板倉区上久々野のMさん宅にて撮影しました。花の色は白です。昨年12月上旬に咲きはじめ、いまま咲いていると聞いてびっくりしました。この白い水仙の花言葉は「尊敬」「神秘」。

## 安塚、牧、板倉でも調査

今冬の豪雪被害は全市域で発生しています。日本共産党議員団では、被害状況を把握するため、手分けしての調査も行っています。

私は17日には安塚区と牧区、20日には安塚区と板倉区に入り調査をしました。

このうち安塚区では、屋根の一部が壊れている家がありました。近所の人に聞くと、ターンの人の家だということでした。屋根雪を早く道路に落ちて処理しないと、家も守れないし、道路を通行する人に危害を及ぼしかねない家も見受けられました。

牧区では、「今年は里雪型だ。おらたりはまだ少ない方だ」という声がある一方、「家のまわりの排雪でバックホーを4回お願いした。すでに8万円を超えた。これから雪がどうなるか心配だ」という声もありました。

板倉区では、要援護世帯の除雪状況を調査するとともに、除雪支援の対象となっていない家の状況もこの目で確かめてきました。安塚区、板倉区では、病院入院中、あるいは介護施設の入所中の人の家で、春まで持つか心配になる家がいくつかありました。家を

守る何らかの支援が必要です。

日本共産党議員団では引き続き調査を行って対策を協議し、行政に働きかけていきます。左の写真は牧区府殿にて撮影しました。記事とは直接関係ありません。



## 県立の病院として存続を

県立柿崎病院後援会は15日、後援会幹部、県議、事務局が藤山病院局長などと会い、県立の病院としての存続、充実を訴えたとのこと。関係者からの情報では、「県立として」ということをキーワードに要請したということでした。運動はまだまた続きます。



はしづめ法一の  
活動レポート

No.1995 2021.1.24  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い 第六四二回 母のユーモア

ひと月に最低一回はある母の通院日。この数カ月、介護施設から病院へ通ってきましました。毎回、ほぼ同じことの繰り返しなのですが、必ず何らかの変化があったり、発見があったりします。

つい先だっただの通院日。毎週発行している活動レポートの原稿の手直し、印刷作業を終わらせ、時計を見たら午前十一時半を回っていました。大急ぎで母の入所している介護施設に向かいました。

通院日の数日前にはどか雪が降りましたので、いつもよりも一時間ほど早く母を迎えに行きました。母とは正月の一時帰宅以来、十数日ぶりで会ったのですが、私の顔を見るなり、「なんだ、とちやか」。私の顔を見て大喜びするに違いない、そう思っていただけに、ちよっと拍子抜けしました。でも、元気でホッとしました。

病院に行くまでの途中、上沼道が使えなかったのは誤算でしたが、道路の路面などの状況は良好で、回り道してもそう時間は変わりませんでした。

病院へは予定よりも一時間早く着く見通しとなったので、病院の近くのスーパーに入りました。いつも診察を終え、帰りに買い物で寄っていたのですが、この日は順番が逆になりました。

駐車場に車を止め、店内に入ったのは、いうまでもなく私一人だけです。母の好きな稲荷寿司だけでもよかったです。店内に入ったら、キンカン、デコポンが目にとまりました。母が見たら喜んでいないと思っただけです。これらも購入しました。

車に戻って、「おまん、風、何、何、こっつおになったね」と母に訊くと、「カレー」と答えました。となれば、「いらん」と言うかも知れなかったのですが、購入した稲荷寿司を見せると、ひとつだけ、手を伸ばしました。やはり母の好物ですね。

稲荷寿司を食べたあとは、恒例となって

いる弟たちとのテレビ電話を楽しみました。この日は、愛知県で喫茶店を経営している弟がお客様たちにもスマホ画面を見せました。弟のスマホ画面で私や母の顔が見えたのでしよう、「おー、似ているね」「これがお母さんか。元気でね」などといった声が聞こえてきました。

病院では、看護師さんが血圧などを測定した後、いつものお医者さんが聴診器を使って診てくださいました。「おばあちゃん、どこか悪くないですか」という質問に母は、「どこも悪くねです」と答えたので、お医者さんは笑顔になりました。

お医者さんは「おばあちゃん、その後、体調はいかがですか」という意味で質問されたので、母の回答は間違っているわけではありませぬ。でも、悪いところがあるから通院しているのです。そばで聞いていた私も、「どこも悪くねです」には笑ってしまいました。この日、お医者さんは母について、「顔が少し小さくなった感じがしますね」と言われました。何でも食べますが、食は細くなったのかも知れませぬ。

診察は五分くらいで終わり、その後、薬局に寄って薬を出してもらいました。こちらの方は二〇分ほどかかりました。

病院への行き帰り、母が目を覚ましていたのはキンカンを食べた時だけ、今回もほとんど眠っていました。「おまん、ねぶつてがか」と聞くと、「ねぶつてくなんかねえよ。おれの顔がねぶつてただけだ」。

この言葉を聞いたとき、十数年前に入院している父を母と共に見舞ったときの父と母のやりとりを思い出しました。父はベッドから母の顔を見上げ、「かちゃ、もつと目を開ける」と言い、それにたいして母は、「おれの目は元々細いがどね」と言っただけでした。「どこも悪くね」「おれの顔がねぶつてただけだ」を聞き、母のユーモアは、まだ健在だと思いました。

## 薪ストーブで煮て…

薪ストーブで大根や白菜などをまるごと煮て、ニワトリのエサにする。そんなめずらしい光景を先日、大湊区で見ることができました。

こんなエサを食べれば、おいしい卵を産むこと間違いなしです。懐かしかったですね。



## ニュースフラッシュ

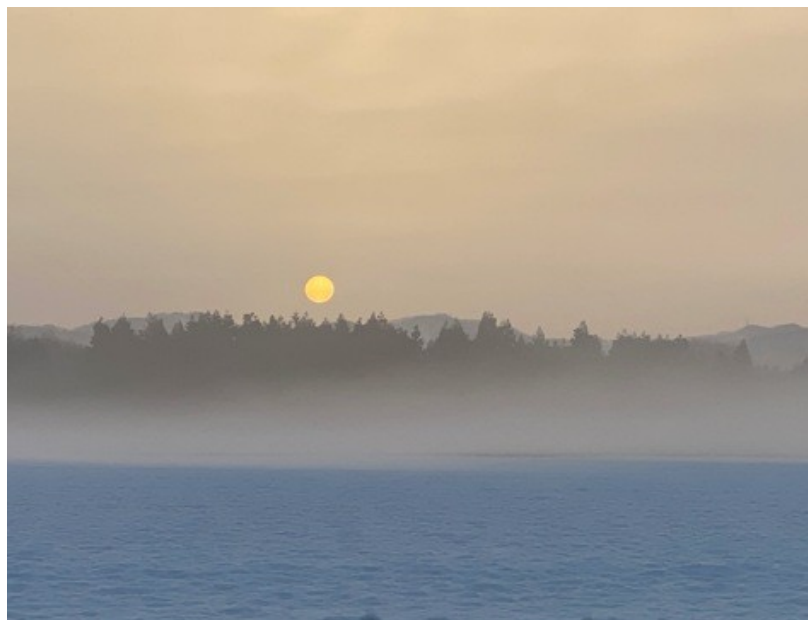
### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月13日(水)	1月20日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.044	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.053	0.040
名立分遣所	0.043	0.047
高士分遣所	0.057	0.053

## お月さんのような朝日が昇った



色は黄色。形はまんまる。15日の朝、東の空からそんな太陽が昇りました。この日は雪の上には霧も発生してました。この幻想的な風景をつくりだしたのは黄砂です。写真は、吉川区下町にて撮影しました。

# 春よ来い

## 第六四二回

## 母のユーモア

ひと月に最低一回はある母の通院日。この数カ月、介護施設から病院へ通ってきましました。毎回、ほぼ同じことの繰り返しなのですが、必ず何らかの変化があったり、発見があったりします。

つい先だっただの通院日。毎週発行している活動レポートの原稿の手直し、印刷作業を終わらせ、時計を見たら午前一時半を回っていました。大急ぎで母の入所している介護施設に向かいました。

通院日の数日前にはどか雪が降りましたので、いつもよりも一時間ほど早く母を迎えに行きました。母とは正月の一時帰宅以来、十数日ぶりで会ったのですが、私の顔を見るなり、「なんだ、とちやか」。私の顔を見て大喜びするに違いない、そう思っていただけに、ちよっと拍子抜けしました。でも、元気でホッとしました。

病院に行くまでの途中、上沼道が使えなかったのは誤算でしたが、道路の路面などの状況は良好で、回り道してもそう時間は変わりませんでした。

病院へは予定よりも一時間早く着く見通しとなったので、病院の近くのスーパーに入りました。いつも診察を終え、帰りに買い物で寄っていたのですが、この日は順番が逆になりました。

駐車場に車を止め、店内に入ったのは、いうまでもなく私一人だけです。母の好きな稲荷寿司だけでもよかったです。店内に入ったら、キンカン、デコポンが目にとまりました。母が見たら喜んでいないと思っただけです。これらも購入しました。

車に戻って、「おまん、風、何、何、こっつおになったね」と母に訊くと、「カレー」と答えました。となれば、「いらん」と言うかも知れなかったのですが、購入した稲荷寿司を見せると、ひとつだけ、手を伸ばしました。やはり母の好物ですね。

稲荷寿司を食べたあとは、恒例となって

いる弟たちとのテレビ電話を楽しみました。この日は、愛知県で喫茶店を経営している弟が客さんたちにもスマホ画面を見せました。弟のスマホ画面で私や母の顔が見えたのでしよう、「おー、似ているね」「これがお母さんか。元気でね」などといった声が聞こえてきました。

病院では、看護師さんが血圧などを測定した後、いつものお医者さんが聴診器を使って診てくださいました。「おばあちゃん、どこか悪くないですか」という質問に母は、「どこも悪くねえです」と答えたので、お医者さんは笑顔になりました。

お医者さんは「おばあちゃん、その後、体調はいかがですか」という意味で質問されたので、母の回答は間違っているわけではありませぬ。でも、悪いところがあるから通院しているのです。そばで聞いていた私も、「どこも悪くねえです」には笑ってしまいました。この日、お医者さんは母について、「顔が少し小さくなった感じがしますね」と言われました。何でも食べますが、食は細くなったのかも知れませぬ。

診察は五分くらいで終わり、その後、薬局に寄って薬を出してもらいました。こちらの方は二〇分ほどかかりました。

病院への行き帰り、母が目を覚ましていたのはキンカンを食べた時だけ、今回もほとんど眠っていました。「おまん、ねぶつてがか」と聞くと、「ねぶつてくなんかねえよ。おれの顔がねぶつてただけだ」。

この言葉を聞いたとき、十数年前に入院している父を母と共に見舞ったときの父と母のやりとりを思い出しました。父はベッドから母の顔を見上げ、「かちや、もつと目を開ける」と言い、それにたいして母は、「おれの目は元々細いがどね」と言っただけでした。「どこも悪くね」「おれの顔がねぶつてただけだ」を聞き、母のユーモアは、まだ健在だと思いました。

## 薪ストーブで煮て…

薪ストーブで大根や白菜などをまるごと煮て、ニワトリのエサにする。そんなめずらしい光景を先日、大湊区で見ることができました。

こんなエサを食べれば、おいしい卵を産むこと間違いなしです。懐かしかったですね。



## ニュースフラッシュ

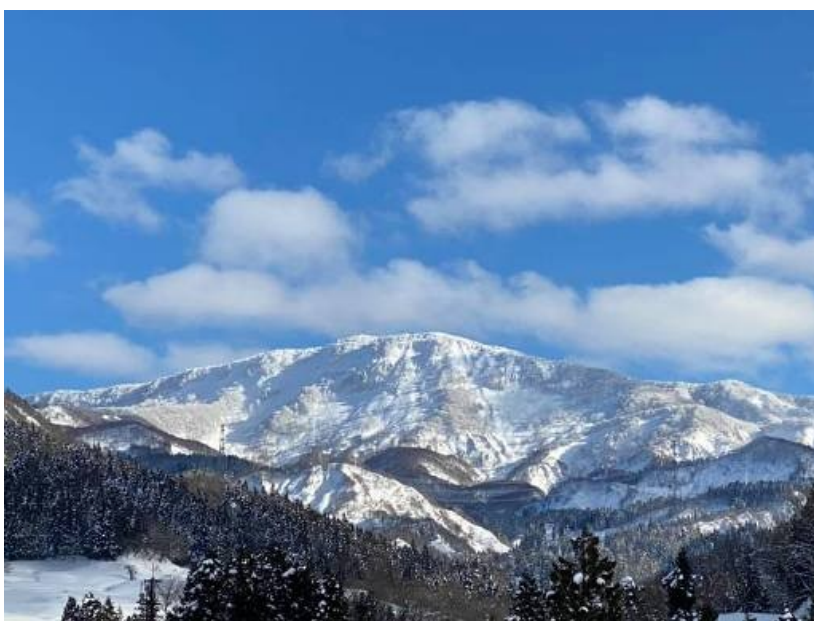
### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月13日(水)	1月20日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.044	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.053	0.040
名立分遣所	0.043	0.047
高士分遣所	0.057	0.053

## 冬の黒倉山、青空バックに美しく



先週の水曜日、柄山まで除雪状況を見に出かけたとき、久しぶりに青空が広がるなか、黒倉山が白く輝いていました。あまりにも美しいので、やすらぎ荘付近や寺野第2配水池脇で何枚も写真に収めました。